

## 2015年スリランカを知ろうツアー 小学校交流についての報告

### 1. 要旨

ここでは2015年3月16日から3月22日まで行われたNPOラマーミトゥルの理事長山崎シルヴァが企画した、スリランカを知ろうツアーのメインの活動であるスリランカの小学校との交流の中身がどのようなものであったかを報告したいと思います。

### 2. 今回行った小学校

3月17日 クルナーガラ  
ウドゥガマスリペラクムウィディアラヤ  
(写真は歓迎されたとき)



3月18日 トリンコマリー  
イラッカディシンハラウィディアラヤ  
(写真は日本の文化紹介のとき)



3月19日 トリンコマリー  
カッラムパタイ小学校  
(写真は紙芝居のとき)



### 3. それぞれの小学校の状況

- ①〈ウドゥガマスリペラクムウィディアラヤ〉
- ・1年生(6歳)～4年生(10歳)の生徒42人。
  - ・シンハラ为学校

長年小学校として利用されてなかった為、使用できる教室が限られている。  
何個かリフォームが必要な教室があり、早急に対応したいのは現在の4年生の子ども達が  
来年5年生として使用する為の教室のリフォーム。

②〈イラッカンディシンハラウィディアーラヤ〉

- ・1年生～5年生の生徒43人。
- ・シンハラの学校

図書館が現在なく、空いている部屋に本棚と本50冊ほどが必要な状態。  
子どもたちが体育の授業で使うスポーツ用品が足りない。バレーボールと  
そのネット、サッカーボール、クリケットで使うバットとウィケッツ。  
音楽の授業で使う楽器も足りない。ゲタベラ、パンテル、サルピナ、メロディカなど。

③〈カッラムパタイ小学校〉

- ・1年生～5年生の生徒10人。
- ・タミルの学校。

現在使用している机がボロボロなので新しい木の机とイスが必要。  
学校の教材を入れる棚もなく、2個必要。  
広い校庭はあるが、遊具がない。シーソー、ブランコ、すべり台などの設置。

4. 今回行った活動内容と準備、実際活動を終えてどうだったか

- ・予定していた活動内容

☆自己紹介

①日本文化紹介

②紙芝居

③a おりがみ

b あやとり

c なわとび

3グループにわかれる

④中あて

・自己紹介をした後、①から④まで順番に活動をおこないましたが、  
①の日本文化紹介は、模造紙にチラシや広告の写真を切り取って貼ったものを子供たちに見せながら説明しました。他にもポスターや絵が描かれた布などを見せながら、日本文化を

説明しました。日本の和食や、電車、富士山その他いろいろな写真を見せながら、説明しましたが、子供たちも真剣に見てくれていました。



②の紙芝居では「はしのうえのおおかみ」という日本の紙芝居を持っていき、最初に日本語を読み上げた上で、シンハラ語に訳したものを読み上げました。日本語で読むときも、シンハラ語に読むときも、読み方がとても物語に引き込まれる読み方だったので子供たちも真剣に聞いてくれて、見せ場でもちゃんと反応をしめしてくれました。

3番目の小学校はタミルの小学校だったので、日本語→シンハラ語→タミル語に訳して読み聞かせました。



③は子供たちの年齢に合わせて、小さい子どもたちにおりがみ、あやとりを教え、比較的大きい子供たちとなわとびをしました。なわとびは大なわとびをもっていき、皆でとべるようにしました。最初はまわってとぶことは難しそうだったので、左右にふってとんでいましたが、何回かやっている内にまわってとべるようになった小学校がありました。



④の中あてはなわとびをした後にやる形にしました。最初に行った小学校では比較的小さい子供が多く、中あては少々危なかったのでパスをしあったりしてみました。後の2つの小学校では中あてをすることができ、子供たちと走り回りながら楽しく遊べました。



・紙芝居以外に使うもの（おりがみ、あやとり、ボール、なわ、模造紙）は全て3つの小学校全てに渡せるように3セットずつ用意しました。目的は、私達との交流を通じて、その後もそのもので遊べるようにです。



・その他にもツアーに参加してくれた人の中で、自作で竹とんぼを作って、こどもたちに配ってくれたり、日本の文化が分かるようなポスターや布をもってきてくれたりしました。



・全体的には実際に活動をしてみると、全ての小学校で全ての活動をきっちりやる、ということでは出来ず、時間と睨めっこをしながらやってきました。更に、実際に活動をする中で次はこうしよう、こうやってみよう、という改良点が見つかったりしました。

行く小学校は50人未満の小学校という共通点はあるけれど、実際の人数、どのような場所であるか、また年齢層も小学校ごとに違ったため臨機応変に活動をどのように行うかを考えることが必要でした。

今年は子供たちと対面した際に一人ずつ自己紹介をしました。シンハラとタミルの2つの小学校にいったので、それぞれの言葉で名前をいいました。子供たちも名前を復唱してくれたりしました。一人一人が最初に自分が何者であるかという事を明らかにすることは、子供たち一人一人と交流していこうとする中で大切なことであると感じました。

## 5. 感想

山崎南世美

スリランカの小学校へいくのはこれで3回目となりました。毎年こどもたちと交流する中で新たな発見があります。前回の発見、もしくは気づきをいかせたのが今年の小学校交流だったと思います。自己紹介や紙芝居などは去年の経験から考えついたものでした。やはり現地に直接行くことで、何が必要なのか何が子供たちが楽しいと思うのか、想像力が働かせやすかったです。

今回行った小学校では、なかなか設備が整っていなかったり道具がなかったりしたのですが、子供たちはその中でも学校に通うのが楽しいという雰囲気をもっていました。

決して暗い印象はなく、どの小学校でも子供たちはいきいきとしていました。私たちを出迎えてくださる時も花の首飾りを用意してくれたりと、私たちはあたえるだけの立場ではなく、スリランカの人々のあたたかい気持ちをうけとれる立場でもあったと、再確認できました。

長野桂子

今回私は初めてスリランカの小学校へ行き、日本の文化を紹介しました。  
日本の着物・富士山・日本食の事について話したり、紙芝居を読んだり、みんなすごく興味津々で話を聞いてくれました。  
縄跳びや中あて(ドッチボール)をしたり、竹とんぼや折り紙を教えたりしました。  
大人の人たちも折り紙・あやとりを見て一緒にやったりしてとても楽しいひとときを過ごしました。  
スリランカの小学校は日本の小学校のように遊具があまりありませんでした。他にも椅子や机、本も足りない状態でした。  
全てが不足したなかでありながらみんな笑顔で迎えてくれました。  
私はスリランカの小学校の現状を伝えることで今よりもっと良くなることにつながるのではないかと思いました。

溝井萌子

今回、初めてタミルの子どもたちの学校に行き、交流ができたことは、本当に良い経験となりました。同じ国の人々が、通訳を介して会話をする姿を、実際に見て、改めて「多民族国家スリランカ」を感じました。学校の環境は様々でしたが、どこの小学校の子どもたちも、本当にいきいきとしていて、とっても楽しそうでした。私たちが持って行った日本の遊び、これは彼らにとって未知のものだったはずですが、きらきらした目で、興味津々の様子で話を聞いてくれて、何事も積極的に、トライしてくれました。そんな子どもたちの姿が本当に嬉しかったし、こちらが元気をもらえました。色々な思い出がありますが、2番目の小学校で校長先生が言っていたことが、私のなかでとても印象に残っています。「この学校はシンハラ为学校だけど、タミルの子もムスリムの子もたくさんいて、みんなと一緒に勉強して、生活を送るのです。」こうして子どもたちは、幼いころから、共生を学んでいくのだと実感しました。互いを尊重して共に生きる、私たちがスリランカから教えてもらうことも、たくさんあります。

☆2015年スリランカを知ろうツアー 概要☆

3月16日 コロンボ空港到着



3月17日 ウドゥガマスリペラクムウィディアーラヤとの交流、シーギリヤ登山。



3月18日 イラッカディシンハラウィディアーラヤとの交流、ヒンドゥー寺院の見学。



2015/4/12  
山崎南世美  
溝井萌子  
長野桂子

3月19日 カッラムパタイ小学校との交流、温泉、港の見学。



3月20日 お寺のアームスギヴィングに参加、スパイスガーデンでランチ。



3月21日 キャンディダンスと仏歯寺の見学、宝石店、サリーのお店でのショッピング。





2015/4/12  
山崎南世美  
溝井萌子  
長野桂子

3月22日 象の孤児院、コロンボでのショッピングを経てコロンボ空港へ。

